



5月の声が聞こえて、ママチャリで隅田川を渡ると、ゆったりと長いかたを流していた。国技館の前に出ると、のぼり旗が立ち、5月場所の切符の販売がはじまっていて、今日は番付表の売り出しも始まった。相撲取りたちもあちこちうろろして、時折ピンツケ油の匂いに気づく。裸足で浴衣一枚を簡単にまいて頭はぼさぼさの砂だらけなのがその辺に立っていても、さほど哀れに見えないくらいに陽気になってきた。裏通りを行くと相撲部屋の回りでは砂だらけの稽古まわしを広げて日に干しているのを良く見かける。吉良亭跡の公園の八重桜も福福しく咲ききって花びらが舞い、ぐるっと回って両国の事務所に帰ってくると、1階の寄席にはぎやかに和服の女性がた

むろしている。そうだ、今日は月に一度の女流講師の会であった。エレベータを待っていると、張りのある声や三味線、時には太鼓の音が聞こえてくる。両国の町も冬の厳しさからようやく春の穏やかさに変わってきて、穏やかな華やぐ気持ちに変わっていきます。

そんな穏やかな中ですがこのところ毎日のように交通事故に出会う。町のあちこちで転がったりうずくまったりしている人を見かけると、人の心のちょっと浮いた落ち着きのなさが見える気がする。その目はそのまま自分に向いて同じような落ち着きのなさが見える。この10年ママチャリで走っていて、最近はずばなくなっただがいつこうなるかわからない薄寒さを感じられる。困ったことだ。

そんな中で続けて選挙があって、一日2000人以上の人をじっくり見る機会があり、次から次へと様々な顔と体形と性格と年齢、障害、態度の異なる人たちをじっくりと見ていた。あらゆる変化があったがひとつ同じことは人殺しみたいな顔つきの男でも、苦痛にゆがんで足をひきずる人も、手をふって目と目を合わせて笑顔になるときは実にみんな良い顔だということだ。そんな単純なことだったが、もしかしたらその辺に何かの鍵があるかもしれない。そんなことを考えていた。

そんな中で今月はなんとなくぼーっとしつつ、これからどっちのほうへ流れていくのか、すべての考えをオープンにして考えています。これからどうやって生きていくのかを落ち着いて考えなければいけない時でしょう。けっこう単純で簡単なことであるのかも知れません。そんなことを考えながら、この間町会の若い人の所にふらりと行ったら、彼は相変わらず、力強く、エネルギーに満ちた激高と、戸惑いとどこに向けていいのかわからない怒りに満ちて酒を飲んでいて。青春の力に満ちていたと言っていたかもしれない。別の日には引退して一人で月日をうっちゃっている男のところに行った、彼もまた、出来る範囲で動きながら、たくさんの思索の中でまだまだ元気なそのエネルギーをどこに向けてのか模索していて、あふれるように言葉が出てきた。そんな人たちと会いながら、どうやったらこのエネルギーを、私も含めて生きて力に出来るのかと改めて思う。そうだ今度の町会の総会でそんな話をしてみよう。たくさんの人の話を聞いて聞いて聞きまくれば道は開けるような気がするのだ。たくさんの行き所の見えない力を集めていきながら、暖かくなっていくのに歩調を合わせて穏やかな生き方を探していこうと、今更ながら考えています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲